

# 公開実用 昭和61-129728

⑯ 日本国特許庁(JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-129728

⑤ Int.Cl.<sup>4</sup>

B 65 D 21/02

識別記号

庁内整理番号

6564-3E

⑭ 公開 昭和61年(1986)8月14日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑬ 考案の名称 二連式液体注出器

⑲ 実 願 昭60-12489

⑳ 出 願 昭60(1985)1月31日

㉑ 考 案 者 後 藤 孝 之 東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉野工業所内

㉒ 出 願 人 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3の2の6

㉓ 代 理 人 弁理士 今岡 良夫

明 細 書

1. 考案の名称

二連式液体注出器

2. 実用新案登録請求の範囲

圧搾可能な容器体胴部 2 を有する一対の容器 1 の一方側面を平板状垂直壁 3 に形成させ、該平板状垂直壁の上部に、係合突子 4 と、該係合突子を中心とする円周に沿う弧状の長孔 5 を設け、これら両容器の平板状垂直壁を重ね合せて、一方の容器の係合突子を他方の容器の長孔に、また他方の容器の係合突子を一方の容器の長孔に、それぞれ長孔の長径方向へ摺動可能に係合させたことを特徴とする二連式液体注出器。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、胴部圧搾により液体が注出される二つの容器を、容器側面においてそれぞれ個別に胴部圧搾が行えるように連結して構成した二連式液体注出器に関する。

〔従来技術〕

456

( 1 )

従来この種の液体注出器は、内容液が異なる毎に容器を単体で形成するのが一般的であつた。

〔考案が解決しようとする問題点〕

従来液体注出器は、その容器が上述したように単体で形成されていたため、例えば化粧液体のように、異種の液体であつても時間差をもつなどして関連して使用されるものにあつては、その都度目的とする容器を複数個ある中から探し当てるなどして取り出さなければならず、その使用並びに使用後における保管が面倒であつた。

本考案は上記問題点を解決するために提案されたもので、使用並びに保管に便利な二連式液体注出器を提供することを目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕

本考案の二連式液体注出器は、一対の容器 1，1 からなり、この容器はそれぞれ圧搾可能な容器体胴部 2 を有すると共に、一方側面を平板状垂直壁 3 に形成させている。

上記平板状垂直壁 3 の上部には、係合突子 4 と、該係合突子を中心とする円周に沿う弧状の長孔 5

457

とが設けられる。

そして、上記両容器の平板状垂直壁 3 を重ね合せて、一方の容器の係合突子 4 を他方の容器の長孔 5 に、また他方の容器の係合突子 4 を一方の容器の長孔<sup>5</sup>に、それぞれ長孔の長径方向へ摺動可能に係合させている。

〔作 用〕

第 1 図および第 2 図が示す注出器不使用時には、両容器 1, 1 の一方側面に形成させた平板状垂直壁 3 を全面に亘つて重ね合せて連結している。すなわち、かかる状態では容器体胴部 2 を個別に圧搾することが困難となる。

注出器使用時には、第 1 図および第 2 図が示す状態からいずれか一方の容器を他方の容器に対して所定方向に回動させる。この時いずれか一方の容器は、その長孔が係合する他方の容器の係合突子を支点とし、かつその係合突子が他方の容器の長孔に案内されて回動し、結局第 4 図が示すように、両容器 1, 1 はその容器体胴部 2, 2 において相互に離間し拡開する。この結果、任意の容器

の胴部圧搾が可能となり、液体注出がはかれる。

〔実施例〕

本考案の注出器において、両容器を前後方向に整列させるために、係合突子 4 と、長孔 5 の上端縁とが同一水平線上に位置して形成させている。

また、本考案の注出器を構成する各容器 1 は大抵は、前述した容器体胴部 2 と、該胴部上端に開口させた口部 6 の頂面に第 1 頂壁 7 を載置させて該頂壁周縁から垂設させた周壁 8 を上記口部外周に嵌合させ、第 1 頂壁から注出筒 9 を起立させたキャップ状部材 10 と、上記注出筒に摺動自在に嵌合させた内筒 11 を第 2 頂壁 12 から垂設させると共に該内筒との間に間隙を隔てて外筒 13 を上記第 2 頂壁から垂設させ、該第 2 頂壁には上記内筒と連通して第 2 頂壁側面に開口するノズル孔 14 を穿設させた上下動部材 15 と、上記容器体胴部の上部外面に筒部 16 の下端部を嵌着させ、かつ上記キャップ状部材と上下動部材とを筒部内に位置させて上方へ起立させたガイド筒 17 とからなる。そして、上記外筒下端外縁に付設させた



第 1 係合突条 1 8 をガイド筒内<sup>に</sup>面中間筒 1 7 a を介して周設された第 2 係合突条 1 9 下面に係合させると共に、第 2 係合突条と第 1 頂壁との間のガイド筒内面に第 2 係合突条先端円と同内径又は小内径で、かつ第 1 係合突条先端円よりも小内径の摺動リング 2 0 を上下動自在に嵌合させ、更に上記注出筒内面に形成させたオリフィス状部 2 1 内に第 2 頂壁から垂設させた弁棒 2 2 を水密に嵌合させ、更に又スプリング 2 3 で上下動部材を上方へ付勢させ、該付勢に抗しての上下動部材押下げにより第 1 係合突条 1 8 が摺動リング内面に嵌合した状態からの押下げ解放によつて、摺動リング 2 0 が第 1 係合突条 1 8 と共に上昇した後第 2 係合突条 1 9 に係合して停止する一方第 1 係合突条は上昇し、このとき弁棒 2 2 がオリフィス状部 2 1 から外れて注出筒部内を通つて容器体胴部内とノズル孔 1 4 とが連通可能に設けてある。加えて、本考案に係る係合突子 4 と長孔 5 を備えた平板状垂直壁 3 は前述したガイド筒 1 7 に形成させている。この実施例によれば、キャップ状部材 1 0 等



を  
取外したり、螺回して緩めたりすることなく、単  
に上下動部材 9 を昇降させるだけで液体の外部注  
出が可能となるという利点がある。

#### 〔考案の効果〕

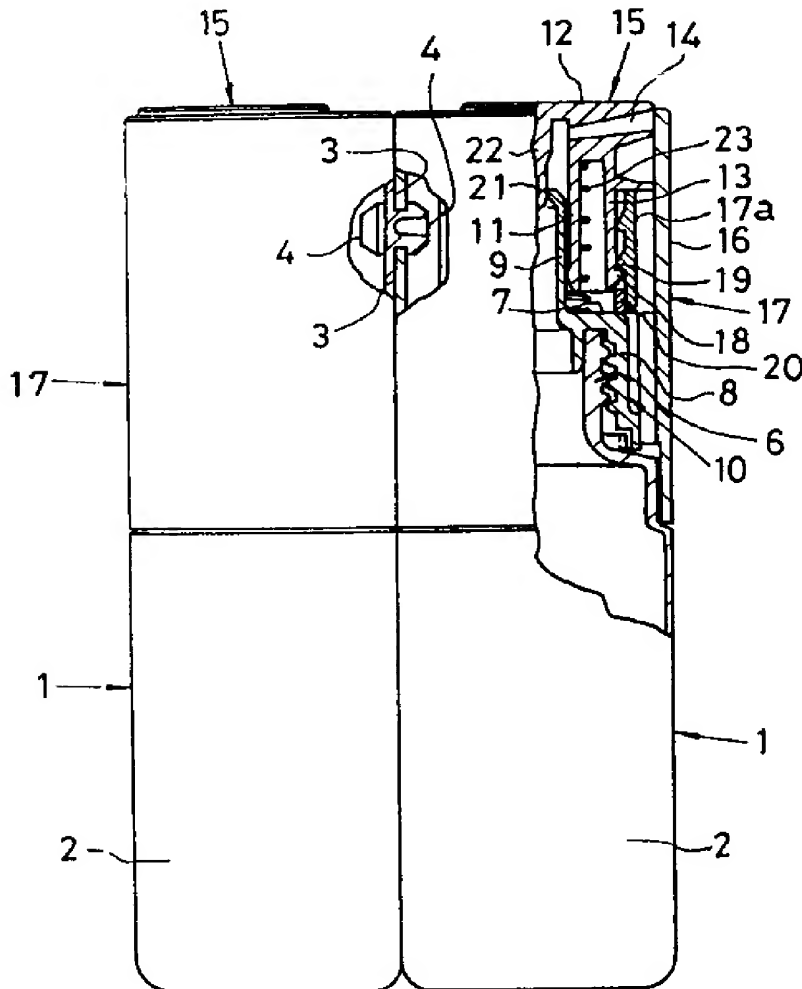
以上説明したように本考案によれば、二つの容  
器を相互に回動自由に連結したので、注出器使用  
時には両容器の下半部分を相対的に変位させるこ  
とによつて任意の容器の胴部圧搾が可能となり、  
また注出器保管時には前後方向に整列させてコン  
パクトに保管出来、使用並びに保管に便利な二連  
式液体注出器を提供出来るという効果が得られる。

#### 4. 図面の簡単な説明

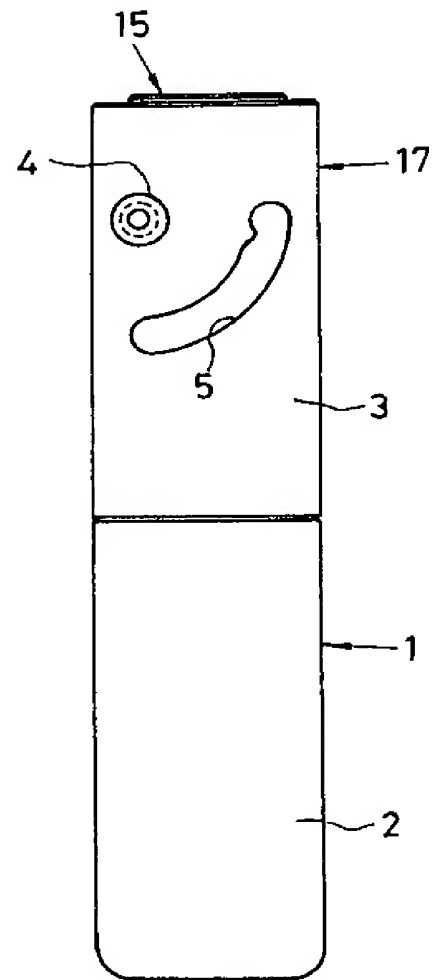
第 1 図は本考案の二連式液体注出器の一実施例  
を示す一部切欠正面図、第 2 図は同じくその一部  
切欠平面図、第 3 図は同じく容器単体の側面図、  
第 4 図は同じく作用状態を示す側面図である。

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 .. 容 器  | 3 .. 平板状垂直壁 |
| 4 .. 係合突子 | 5 .. 長 孔    |

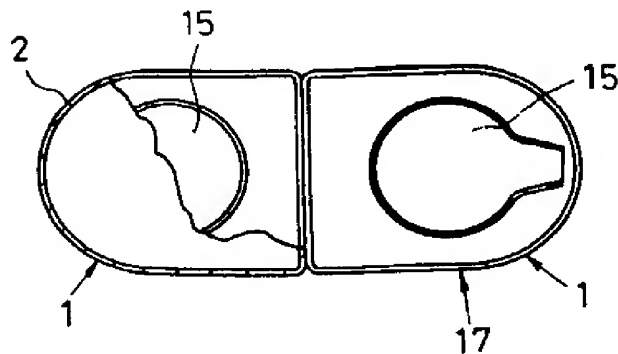
第 1 図



第 3 図



第 2 図

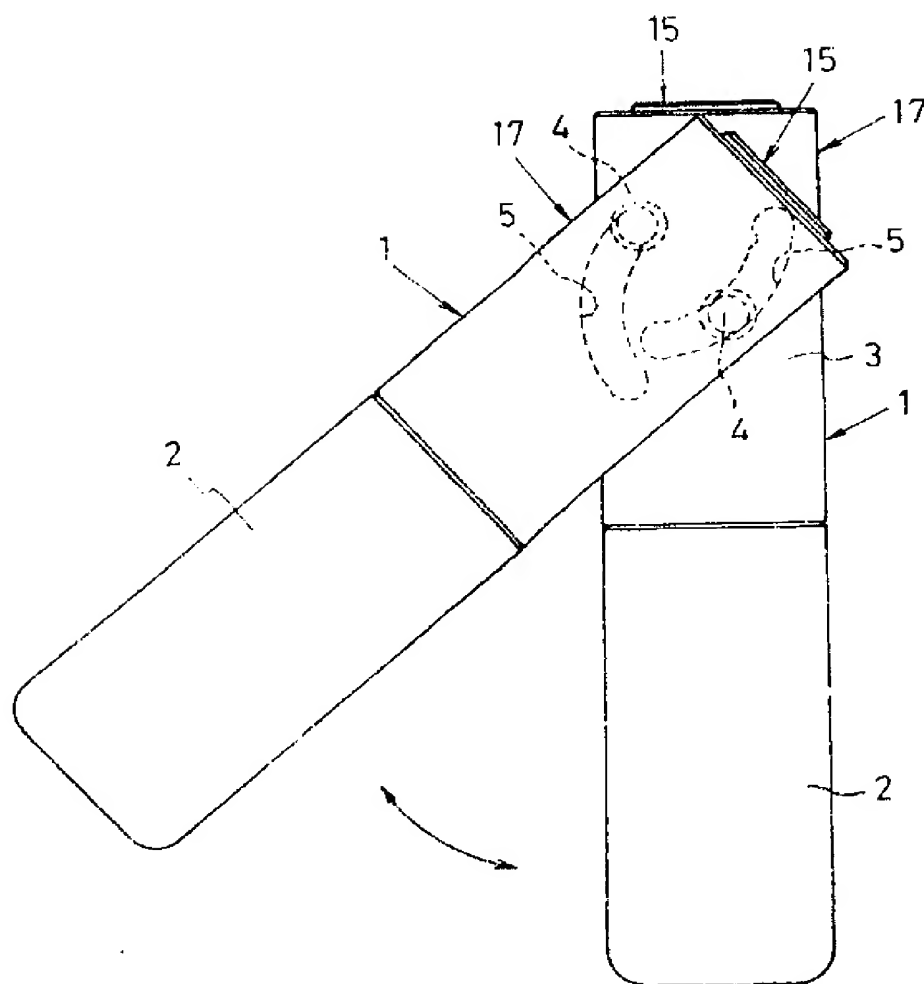


462

実開61-129728  
出願人 株式会社 吉野工業所  
代理人 (弁理士) 今岡 良夫



第4圖



46.3

出願人 株式會社 吉野工業所  
代理人 (弁理士) 今岡良夫